

東北地域の復興に向けて

復興道路・復興支援道路の進捗状況

- 既に利用している区間
 - 今後開通予定の区間
- ※平成26年9月時点



トンネルドリルジャンボの 営業・サービス体制強化に宮古出張所を開設

現在、東北地域では復興道路、復興支援道路などの交通インフラ整備が進行中で、6～7年後の開通を目指し各所で工事が行われています。山岳地帯のためトンネルも多く、現在多数のトンネル工事が急ピッチで進められており、ほとんどの現場で当社のトンネルドリルジャンボが使用されています。今後も工事件数は増える見込みで、ピーク時にはこの地域だけで約40台の稼働が見込まれます。

当社はトンネルドリルジャンボのほかトンネル工事用油圧ブレーカなど、山岳トンネル工事に必要な機械を扱っており、より現場に近い場所でサポートすべく、2014年6月に宮城県名取市にある中核事業会社である古河ロックドリル東北支店の出先機関として、岩手県宮古市に出張所を開設しました。



トンネルドリルジャンボ



油圧ブレーカ

宮古出張所について

復興道路、復興支援道路では開通を急ぐため、トンネル工事で使用するトンネルドリルジャンボの台数を増やして掘削を早めるなど、過去の工事例と比べ、非常に多い台数が稼働しています。宮古出張所では「全断面自動追尾式ナビゲーションシステム」等の新技術の導入はもちろん、特に難工事が予想されるリア中央新幹線でのトンネル工事を見据えたゼネコンとの関係強化を図るべく、現在高稼働が続く東北地域での営業・サービス強化に努めています。



土砂の搬送、
盛土による
かさ上げが
進んでいます。



陸前高田市の復興事業において 鉱山開発で培った破碎・運搬技術が活きる

東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市では、高台移転計画等の復興事業が実施されています。津波から街を守るため、隣接する山を削って高台を作り、人が暮らせる環境を整備するというプロジェクトです。

高台移転計画で当社が担当する事業は、土砂や岩石を破碎する大型破碎設備、破碎した土砂・碎石をかさ上げ地に搬送する長距離ベルトコンベア、河川対岸にベルトコンベアをわたす吊り橋の3つの設備で構成され、当社が設計から施工までを担い

ました。現在はこれら設備の運転管理を行っており、土砂の搬送、盛土によるかさ上げに貢献しています。早急な復興が求められるなか、来春には土砂の搬送がすべて完了する予定です。



機械の運転管理を行っている中央操作室

高台移転計画概略図と当社の担当事業



大型破碎設備



土砂・岩石を300mm以下の大きさに破碎する設備（フィーダ、スクリーン、クラッシャー）が8基。処理能力は国内最大規模の8,000t/hを有します。

吊り橋



「希望のかけ橋」と命名された主塔間距離220mの長距離ベルトコンベア専用仮橋。川の環境に配慮し、吊り橋構造を採用しました。

長距離ベルトコンベア



総延長約3kmの長距離ベルトコンベア。時速15km、搬送能力は6,000t/hで、10トンダンパーによる輸送と比較し、工期を1/3まで短縮できます。